

令和2年度 因島北認定こども園 自己評価結果

1 因島北認定子ども園教育・保育目標

『心も身体ともに豊かな人間形成の基礎を培う』

(1) 感じる力・気付く力をつける

身の周りの自然、人、出来事などに心が動き、興味を持って関わる中で、その面白さ、不思議さ、心地よさ、辛さ、悲しさ、優しさなどを感じ取る力

(2) うごく力をつける

自分のやりたいことへ向かって、心と身体を積極的に働かせて取り組み、自分の体を自由にコントロールして遊んだり、状況に応じて適切な行動をとったりする力

(3) 考える力をつける

やりたいことを実現するために、必要物や情報などを集めたり、実現するための方法を考えたりする力

(4) やりぬく力をつける

困難や失敗があってもあきらめず、自分の気持ちを立て直し、『やればできる』という気持ちを持って、粘り強く取り組み、やり遂げる力

(5) 人と関わる力をつける

表情や言葉を通して、互いの思いや考えを伝えあったり、折り合いをつけたりしながら、多様性を受け入れ、様々な人との良い関係を築く力

2 本年度に定めた重点的に取り組むことに必要な目標や計画をもとに設定した因島北認定こども園の評価の各年齢の具体的な目標や計画

0歳児…子どもが快適に、健康で安全に過ごせるようにする。 (1) (2)

生理的要求在十分に満たされるようにする。

1歳児…保育教諭と一緒に好きな遊びを楽しむ。 (1) (2) (5)

一人一人の気持ちを受けとめながら、生活リズムを整える。

2歳児…好きな遊びを楽しみながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさを知る。 (1) (3) (5)

食事、排泄などの簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。

3歳児…基本的な生活習慣を身に付ける。 (1) (2) (5)

友達と一緒に遊びを楽しみ、友達との関わりを広げていく。

4歳児…集団生活の決まりや約束を守り、遊びを楽しむ中で友達とのつながりを広げ

お互いに認め合う仲間作りをする。 (1) (2) (4) (5)

自分の思っている事を皆の前で話し、人の話を聞く態度を養う。

5歳児…友達と協同的な遊びをしながら、最後までやりとげる力を養う。

共通の目的に向かって考え、話し合う力を養う。 (1) (2) (3) (4) (5)

3 評価項目の達成及び取り組み状況

A	十分達成されている	C	取り組まれているが成果は十分ではない
B	達成されている	D	取り組みが不十分である

評価項目	内容	結果	理由
子どもの発達援助 (1) 発達援助 の基本	○一人一人の園児の発達状況に配慮した指導計画を作成し、定期的に評価を行い、その結果に基づき指導計画の見直しを行われているか。(PDCAサイクル)	B	<p>昨年度からの様式に基づき、週間指導計画の内容の充実を図り、より子どもの姿に添った指導計画を作成するために園児の様子を細かく書き込んだり、写真を添付したりすることで園児の姿をみとり、活動計画に活かすことができた。</p> <p>年間を通して週に1回、本園の相談役を中心に体育遊びの様子をビデオにとり職員研修を実施することで教育・保育内容の向上を図った。</p>
(2) 健康管理 ・食育	○一人一人の健康状態に応じた健康管理が行なわれているか。	A	<p>毎月看護師が保健だより「げんきっこだより」を配布したり、毎日欠席児の罹患状況を掲示板で保護者に知らせたりすることで、健康への啓発が出来た。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策では、常に子育て支援課を中心に、関係機関と連携を図り、感染対策の徹底や消毒方法の見直しを行い、保護者への啓発も適宜行った。また、健康カードを毎日つけてもらい、園児の健康状態の把握に努めた。</p> <p>0・1・2歳児クラスでは、登園時に毎朝保護者に検温してもらい、幼児クラスは、保育教諭が検温を実施して、発熱の場合の対応が速やかにできるように体制を整えた。</p> <p>また、食物アレルギー児に対しては、専門医の検査結果や指示書を基に、保護者・園長・看護師・担任・管理栄養士・調理員と面談を行い安全な除去食の給食を提供している。</p> <p>各クラスでは、チェック表での安全確認を徹底し、誤食等の事故は起こっていない。</p>

<p>(1) 保育環境</p>	<p>○「因島北認定こども園の食育年間計画」を基に、意欲をもって食にかかわる経験を積み、食事を楽しむ子どもに育てているか。</p> <p>○園児が自主的に活動できる環境の工夫が行われているか。</p>	<p>A</p>	<p>栽培・収穫・三食食品運動（三色表の作成・給食放送）を通して食育を行った。</p> <p>尾道市子育て支援課からの給食だよりの配布や本園では給食展示を毎日行い、食に関心を持ってもらえるようにした。</p> <p>新型コロナウイルス対策のため、食事の際には、間隔をとり会話を控えるように伝え、新しい生活様式を取り入れながら楽しく食事ができるように配慮した。</p> <p>0歳児クラスでは、安全かつ安心して生活（養護と生命の保持）ができるように温度湿度の管理を行い快適に生活できるようにした。また感覚統合（五感）の発達を促す環境を整え感性の育ちを促した。</p> <p>1歳児クラスでは、食事と遊びのスペースを区別し安心して生活できるようにした。</p> <p>2歳児クラスでは、今年度初めて、2クラスに分けることで、落ち着いた環境の中で発達を促すことができた。</p> <p>3・4・5歳児クラスでは、自分の好きな遊び（ままごと・絵本・制作・囲碁の体験活動等）ができるよう各コーナーの遊びのスペースを充実させた。ロフトでは、お化け屋敷ごっこやハロウィンの遊びを行い、遊びを発展させることが出来た。</p> <p>園舎内では、四季に応じた子どもたち手作りの壁画を飾り、自分たちが育っている地域の自然の移り変わりを感じさせた。このことは園児に自然や地域に興味関心を持たせる一端を担い、情緒を豊かにすることにもつながっている。</p>
<p>(2) 教育・保育内容</p>	<p>○園児一人一人を受容し理解を深めた働きかけや援助が行われているか。</p>	<p>B</p>	<p>広島県教育委員会の乳幼児教育訪問事業を活用し、「乳幼児期に育みたい5つの力」及び「特別な支援を要する乳幼児の支援のあり方」についてコロナ禍の中各クラスの保育指導・指導案の指導）の研修を行い、教育・</p>

	<p>○園児の発達を促す取り組みが出来たか。</p> <p>○地域の教育力を活かした教育・保育内容が構築されているか。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>保育内容の向上に努めた。</p> <p>また、家庭環境の厳しい園児や支援の必要な園児への取り組みとして、保育ソーシャルワーカーに来園してもらい、家庭の背景・園児を中心とした家族関係やその他の関係者の関わりをケース会議で明確にでき、課題を見極めその後の取り組みの方向性を導いていった。</p> <p>新型コロナウイルス対策として、オンライン研修が多岐にわたり開催されたことで、多くの職員が参加することができた。</p> <p>安田式体育遊び「こども忍者タイム」に毎日取り組むことで、子ども達の興味・関心を更に向上させ、個々の発達に合わせた体育遊具の配置や使用するものの組み合わせを徐々に改善したり、冬場にはマラソンを行ったりして心身の育成ができた。</p> <p>グローバル社会に対応できる人材育成のスタートの一端を担うことを期待して、地域から講師を招聘し、年長児を中心に英語教室を計画・実践し、子どもたちの興味・関心を引き出した。成果として12月の5歳児参観日のミニ発表会では、英語劇を発表することが出来た。新しいことに不安感を持っていた子どもも自信を持って、のびのびと発音し表現することが出来ていた。保護者からも喜ばれている。</p> <p>今年度も地域の囲碁指導者による、毎月一回の囲碁教室で、囲碁の魅力を知り熱心に取り組む姿が見られた。</p> <p>絵本の読み合わせでは、新型コロナウイルス対策を踏まえながら、二か所から講師の方々に来ていただき、短時間で少人数の園児対象に年齢や季節に応じた絵本に触れる機会が持てた。</p> <p>サッカー教室や絵画教室も時期や回数を考慮しながら、楽しく参加できた。</p>
--	---	-------------------	---

<p>小学校との連携</p>	<p>○小学校との連携が円滑に行われているか。</p>	<p>B</p>	<p>アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの接続の視点「人と関わり主体的に学ぶ子どもの育成～聴く・話す・気付く活動の工夫を通して～」を具体的な活動として明確化させることで整合性や系統性が図られている。コロナ禍で工夫しながら、相互のカリキュラムの取り組みを情報交換し、授業参観や研修会・行事等の相互交流で滑らかな接続も図られた。</p> <p>今年度は、新型コロナウイルス対策のため、開催時期が遅れたが予定していた内容について、積極的な会話がなされ各施設との連携強化につながった。</p>
<p>子育て支援 (1) 保護者への支援</p>	<p>○保護者と信頼関係を築き連携や情報交換を行いながら教育・保育に関する理解を深めているか。</p> <p>○保護者支援の方法について専門性を持っているか。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>昨年度から引き続き、教育・保育の可視化と内容の理解を深めるため、保護者向けに【ドキュメンテーション】を作成してきた。</p> <p>全クラスが定期的継続的に作成し、玄関に掲示して保護者や来園者に見ていただき理解を深めてもらった。保護者からは、コロナ禍で、参観日もあまりない中「子どもの様子がよくわかった」という感想が聞かれた。</p> <p>また、今年度から写真をネット販売としたことで、自分の子どもだけでなく、「クラスの様子が分かって良かった」という意見が聞かれた。</p> <p>乳幼児教育訪問事業を活用し、2名の幼児教育アドバイザー（元保育所長）と1名の特別支援学校教諭に、保護者への対応の仕方について学んだ。</p> <p>保育ソーシャルワーカーに来園してもらい、保護者への支援の方法について学んだ。引き続き、適正な対応についての研鑽を積みたい。</p>
<p>(2) 地域への支援</p>	<p>○地域の子育て支援の拠点として、地域の子育て家庭を対象とする子育て</p>	<p>A</p>	<p>子育て支援室は、新型コロナウイルス対策のため、昨年度2月より利用を控えるようにという子育て支援課からの要請もあり、園内</p>

	支援を行っているか。		の支援室は開放していないが、電話による相談は随時受け付けている。
子どもの安全 (1) 安全管理	○事故や災害、不審者に適切に対応できる体制があるか。	A	<p>交通安全指導や安全指導を含む保健衛生指導を毎月実施。今年度も引き続き保護者にも知ってもらうためにドキュメンテーションを掲示し、警察や消防署の配布文書を通じて知らせる取り組みをした。</p> <p>不審者対応訓練は、年に2回行った。1回目は映像を基に「いかのおすし」(行かない・乗らない・大声を出す・知らない人について行かない)の合言葉を定着させていった。</p> <p>2回目の訓練では、園内職員に不審者として変装してもらい、対応する間に園児をどのように避難させるか連絡方法はどうかなど、職員間の連携の取り方を実践しながら認識を新たにする取り組みを行った。門扉のオートロック化や防犯カメラの活用も継続して行っている。</p>
(2) 衛生管理	○食中毒や感染症に対する予防や対策についてマニュアルに基づき適切に実施しているか。	B	<p>日頃から看護師の指導もあり、職員研修において衛生管理の徹底を図っている。感染症が流行した場合には、罹患児数を最小限にとどめるため各年齢に応じた手洗い・うがいを徹底させ、保育室の清掃・換気・消毒、玩具の消毒等を定期的に行った。</p> <p>今年度は、特に新型コロナウイルス対策として、アルコールの有効性の周知や消毒液の厳選など、嘱託薬剤師や理事でもある医師の指導の下、積極的な取り組みを行った。</p>
(3) 危機管理	○危機管理マニュアルに基づき園児の安全に留意し適切に対処しているか。	B	<p>職員会議で、リスクマネジメント計画に沿って研修を進めた。ヒヤリハットの報告書を簡素化して、何時でも見られる状況にしたり、ケガの報告(事故報告書等)・危険な箇所の情報共有などを行ったりすることで職員の危機管理・危険回避に対する意識を高めた。</p>

<p>運営管理</p> <p>(1) 組織運営</p> <p>(2) 守秘義務の厳守</p>	<p>○職員間の信頼関係を築き教育・保育についての意識統一ができており、それぞれの適切な役割ができていますか。</p> <p>○保護者や子どものプライバシーの保護、知りえた事柄の秘密保持をはかっているか。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>研修会の持ち方として、研修報告に関しては印象的だった感想を述べるにとどめ、詳しくは資料や報告書の回覧を行ったり、共有のパソコンフォルダーを使ったりして情報の共有をしていった。</p> <p>限られた研修時間を職員の専門性を育み有意義な時間とするため、グループワークを行い、若手職員・中堅職員・ベテラン職員（主任）がそれぞれの考えを出し合ったのち、全体場で報告し合い、課題に対しての取り組みに専門性を持たせ共有することができた。</p> <p>このような研修会を基に主体的で同僚性を生む関係性を築いていった。</p> <p>午前のミーティングでは当日の出欠席状況や健康状態を、午後のミーティングでは翌日の内容や今後の動き等、様々な情報を交換している。知りえた個人情報仕事以外では口外しないことを常に徹底している。</p>
--	--	-------------------	--

4 第三者評価委員からの具体的な目標や計画の総合的な評価結果と今後の課題

結 果	理 由
A	<p>コロナ禍での多くの制限を受けた運営にもかかわらず、園長先生をはじめ教職員全員の方々の創意と努力によって、例年と変わらない保育（教育）を保障してくださったことに心より感謝と敬意を表する。</p> <p>○ 保育・教育内容について 発達段階に応じた『週間指導計画』に基づき“子どもの姿”を的確に見取ったうえでの行事や環境構成による保育（教育）内容が実施されているので子どもの発達や教職員の指導が「点から線に、線から面に」繋がり、今後も「面から立体に」スパイラルな園全体として取組が期待できる。 ※ 『週間指導計画』は、今後も園の財産として蓄積して行って欲しい。</p> <p>○ 人材育成と研修について 所長会・園訪問指導・キャリアアップ研修等の復命書の活用により還元学習を実施することで教職員全体の資質向上を引き続き図って欲しい。</p> <p>○ 保護者等への情報公開について 新型コロナウイルス感染拡大防止対策や行事紹介等は『園だより』により情報が伝達されている。「月の教育・保育目標」「行事のねらい」の提示が良い。 今後は、子どもの自立や学びの基礎力につながるような本の紹介や躰コーナーなどの加筆も期待する。</p> <p>○ 小学校との連携について “地域の宝”を育てる意味合いにおいても、“育ちや学びや指導をつなぐ”ための情報共有や連携を小学校のみならず、中学校も含めて他の認定子ども園・保育所をはじめ放課後児童クラブや療育施設等とも継続してほしい。</p> <p>○ 最近の保護者の過剰反応が気になる。子育ての不安や自信のなさからくるものかもしれない。新型コロナウイルスやいじめ報道などのマスコミ情報、さらには子ども同士のトラブル等でわが子の言葉だけを信じて周りを混乱させることがある。このような保護者にも毅然と向き合えるだけの経験や資質を持ち備えた教育関係者の育成が急務と思われる。</p>